

# 狛江市環境保全審議会

**日 時** 平成 21 年 2 月 23 日（月） AM10：00～ 11：50

**場 所** 小田急線高架下 103・104 会議室

**委 員** 田中会長、井上委員、太田委員、櫻井委員、本橋委員、杉委員、神鳥委員（欠席：小町委員、白井委員、中山委員、松崎委員、榎本委員）

- 口 議 題**
- (1) 「狛江市下水道総合計画」について
  - (2) 「小学生環境サミット」について
  - (3) その他

---

事務局より開会のあいさつがあり、田中会長の進行により議事が進行された。

## 議題（1）「狛江市下水道総合計画」について

今後策定される「狛江市下水道総合計画」の第 3 章「目標と施策」について、事務局（上下水道課）より次の説明があった。

### ①「健全な水循環の再構築への寄与」に向けての施策について

ここでいう「健全な水循環」とは、雨水、地下水、河川水といった一連の水の流れが、市民生活の安心・安全と環境の保全を確保している状態をいう。

その最も重要な施策として「浸水対策」が挙げられる。狛江市では、これまで下水道計画で定めている 1 時間あたり 50mm の雨に対する管渠整備を進めているが、引き続きこれに対する整備を進め、安全度を確保する。

一方で近年、短時間に集中して降る都市型集中豪雨による被害がみられ、この被害についても軽減を図ることを目標とする。

そのための施策として、市全域の雨水管渠整備の完了を目指すとともに、雨を取り込みやすくするため、排水口の土砂を除去する等、雨水排水施設の維持管理を適宜行う。また、雨水の地表面の流れをできるだけ少なくするため、雨水貯留・浸透施設の設置を推進する。

次に、「合流式下水道の改善」が挙げられる。

狛江市では、下水道処理区域のうち、約 2/3 にあたる区域が、合流式下水道区域となっており、一部の未処理の合流下水が公共用水域に放流される場合があることが問題となっている。

これに対し東京都では、緊急整備計画の目標を定めており、狛江市では、それに従い、平成 16 年度に緊急整備計画を策定した。

緊急整備計画では、まず、きょう雑物の削減を行うための施策を実施した。今後は、未処理下水の水量や放流回数を低減するための施策、水再生センターへ送る処理水量を増やす施策を行う。

この緊急整備計画は、平成 25 年度までに実施する予定だが、その後も長期計画として、

さらに合流式下水道のレベルアップを図っていく予定である。

続いて、「水資源としての循環と利用」のための施策が挙げられる。

狛江市の東側を流れる野川は、流域全体で浸透能力の低下や流量の減少、湧水の枯渇といった水循環の健全性が喪失している傾向がみられ、これを改善するためには、流域全体での対策が必要である。

そこで狛江市では、流域の一員として野川の再生を図る施策を推進するとともに、水辺空間を創造すること、雨水の利活用を推進することを目標とする。

そのための施策として、市全域での雨水の貯留・浸透施策を推進すると共に、野川の安全度と親水性がさらに向上するよう、東京都をはじめとする他の自治体へ働きかけていく。さらには貯留した雨水は、広く利活用できるよう取り組みを図る。

以上のとおり、「健全な水循環の再構築への寄与」に向け、雨水の貯留・浸透が重要な施策と考えられる。今後は、その施策の進め方について、さらに検討していく。

## ②「施設の長寿命化」に向けての施策について

まず、「安全対策上の維持管理」のための施策が挙げられる。狛江市の污水管渠は、100%整備済みであり、今後も適切に維持管理していく必要があるが、一方で、臭気や道路陥没が報告されている。この一部は污水管渠の劣化が原因となっていることが予測されている。

そこで、臭気発生、道路陥没の極力防止を目標とし、そのための施策として、発生箇所に対して迅速な対応を行うとともに、今後発生のおそれがある管渠に対して、早急な補修を行う。

次に、「地震対策」が挙げられる。

狛江市は、大規模な地震発生の危険性がある関東平野の南部に位置しているが、これまで地震による大きな被害はなく、具体的な管渠の耐震対策は実施していない。

そこで、狛江市では現在、大規模な地震が発生した場合でも、特に重要とされる路線の管渠が利用できること、避難所のトイレが利用できること、緊急輸送するための道路に車が走行できることを目標とした緊急整備計画を策定している。この緊急整備計画は、防災計画と減災計画に分け、平成 21～25 年度に実施する予定である。

この緊急整備計画は、わたしたちの生活への大規模地震の影響を最小限にするために緊急に実施するものであるが、その後も長期計画として、さらにその安全度を高めるための施策を検討していく。

続いて、「改築・更新」が挙げられる。

狛江市の污水管渠は、昭和 44 年の事業開始から約 10 年間にほぼ整備完了しており、現在まで約 30～40 年が経過している。その結果、現在までに劣化が進んでいる管渠がみられ、狛江市では適宜補修対応しているが、今後も引き続き、効率的な改築・更新を行うことが重要である。

そこで、下水道の機能や役割を持続させ、下水道を安心・安全に利用できることを目標とする。

そのための施策として、劣化レベルが高い污水管渠を優先的に改築・更新するとともに、

将来を見据えた改築・更新計画の策定を行う。さらには、雨水管渠の調査も実施し、管理する予定だ。

以上のとおり、「施設の長寿命化」に向けては、適切な維持管理が重要と考えられる。今後は、その具体的な計画について、さらに検討していく。

### ③「健全な下水道の経営」に向けての施策について

まず、「経営の効率化」が挙げられる。

狛江市は、下水道整備に対する多額の事業債残高を抱えているものの、今後も様々な事業を実施する必要がある。これらを効率的に実施しないと、ひいては下水道使用料の必要以上の増額など、市民への負担が大きくなる結果にもなる為、今後は少しでも経費削減と負債軽減につながる効率的な下水道経営を検討する。

そこで、今後の事業を、その重要度や優先度をふまえて、計画的に実施すること、事業の効率化を図り、財政を適宜見直して、下水道経営を安定させることを目標とする。

そのための施策として、下水道事業を「整備」と「維持管理」に分類して、それぞれ段階的計画を策定する。また、必要に応じて実施体制の見直しや外部委託の推進を行い、効率的な事業展開を図る。

次に、「財政の健全化」が挙げられる。

狛江市では、将来人口減少が見込まれ、使用料収入が減少することが予測されている。その一方で様々な事業費が嵩むことになり、このままでは収支の格差が広がることになる。

そこで、市民への負担増をできるだけ避け、コスト削減を図った効率的かつ適正な事業を実施することを目標とする。

そのための施策として、長寿命化計画に基づく維持管理を実施し、財政負担減を図る。また、将来の経営収支を予測し、特に維持管理や改築・更新のバランスを考慮した見直しを行い、財政の平準化を図る。

以上のとおり、「経営の健全化」に向け、これからの事業計画の効率化が重要になる。今後は、段階的な事業計画について、さらに検討していく。

### ④「下水道サービスの向上」に向けての施策について

まず、「市民への情報公開」が挙げられる。

今回策定する「狛江市下水道総合計画」については、官民一体となり、事業を推進していく必要がある。また今後、事業実施する上でも、説明責任の観点でも、積極的な情報公開が重要となる。

そこで、今後実施する事業に関して、わかりやすい情報開示を行うこと、市民との情報共有を図ることを目標とする。

そのための施策として、短期・中期・長期の取り組みを時系列で整理し、それぞれの整備目標を設定する。また、下水道の施策ごとに、整備目標とあわせて具体的な評価指標を提示する。

次に、「ソフト対策」が挙げられる。

狛江市では、ホームページや「広報こまえ」等の広報誌で、種々の情報公開を行っているが、下水道に関してはPRが不足している状況にある。

そこで、市民が下水道事業をさらに理解できるよう、情報提供を行うことを目標に、ホームページや広報等の充実を図り、市民への情報提供を推進していく。また、下水道への理解を深めるためのイベント等を行い、市民との交流の場を設けていきたいと考えている。

以上のとおり、「下水道サービスの向上」に向けては、市民のみなさんへのわかりやすい働きかけが重要と考えている。今後は、そのあり方をさらに検討していく。

以上に対する主な質疑応答は、次のとおりである。

#### ○下水道総合計画

田中会長　：目次で全体の構成について簡単に説明してほしい。

事務局　　：下水道管渠の寿命が近づいている中で、短期から中長期の下水道事業全般の計画を「狛江市下水道総合計画」として策定する。

また、狛江市の下水道は市全体が流域下水道となっており、狛江市内の処理水は、森ヶ崎水再生センターで処理している。整備面積は 582ha であり、このうち約 2/3 の 389ha が合流式下水道である。

事業着手は昭和 44 年であり、汚水管渠においては、約 10 年間でほぼ整備を終えている。雨水においては、幹線系統は 100%整備済みであるが、枝線は現在整備中で 66%の整備率となっている。

雨水放流の状況は分流雨水放流渠が 3 箇所、合流式下水道越流水放流渠が 2 箇所である。なお、分流、合流各 1 箇所は、世田谷区から放流している。

主な施設構造物は、合流中継ポンプ場であり、市域の流域幹線は野川第一幹線と調布幹線の 2 路線である。

続いて下水道に関わる主な課題であるが、最も重要な課題として、約 10 年間で整備を行った下水管渠の老朽化が進み、今後改築・更新の必要性が高まると考えられることが挙げられる。他に、雨天時の浸水、合流式下水道における越流水、将来人口減少による使用料収入の減少等の課題も挙げられる。

また、この下水道総合計画を策定するにあたっては、国土交通省より「循環のみち」が提唱されており、これを実現することが重要と考えられる。

さらに狛江市では、上位計画として「狛江市第 4 次基本計画（平成 17～21 年度）」が策定され、「狛江市都市計画マスタープラン」をふまえた都市基本構想が計画されている。下水道事業においてもこの実現に向けて課題を整理し、今後の方針や施策、経営のあり方等を定めていく。

狛江市下水道総合計画は 5 つの基本的理念からなっており、狛江市の下水道の目指す姿は、健全な水循環の再構築への寄与、施設の長寿命化、健全な下水道経営、下水道サービスの向上と定める。

水循環の健全性が喪失していることに対しては、流域全体で早急な対応を行う必要がある。また、市民生活の重要なインフラである下水道において、施設の長寿命化をはかり、今後も市民が下水道サービスを楽しむよう努める。さらに、下水道経営においては、将来人口減が見込まれると共に、今後、改築・更新の事業費が嵩むこと

が予測される。狛江市としては、中長期を見通した上での収入確保や支出削減を考慮して、「経営の効率化」と「財政の健全化」に向けた施策を実施する。下水道サービスの向上に関しては、積極的に「情報公開」を行い、ホームページやイベント等の広報・広聴活動を充実させていく。

田中会長 : いずれパブリックコメントのようなことを行うのか。

事務局 : 本審議会の意見を受け、今回資料である「第一次素案」を改善していく。また、夏頃にパブリックコメントおよび市民説明会を予定している。

#### ○狛江市の下水道が目指す姿

太田委員 : P.7 の「狛江市の下水道が目指す姿」について、課題や基本理念とのつながりが見えにくい。フロー図等を用いて「下水道が目指す姿」が出てくるプロセスをわかりやすく表した方がよい。

#### ○整備率

杉委員 : P.2 に狛江市の整備率が汚水 100%、雨水 66%とあるが、全国的、あるいは東京都の中で見て、狛江市の整備はどのくらい進んでいるのか。

事務局 : 全国レベルで見ても、汚水整備はトップレベルである。

委員 : 多摩地区や、東京 23 区内等の整備率を資料編で付けると良いのではないか。

事務局 : 検討する。

#### ○財政

本橋委員 : 下水管渠の寿命が近づく中で、中長期的に予算を組んでも財政的に追いついていくことはできるのか。現状はどうなっているのか。

事務局 : 現状は新たに大きな整備はできないが、新規としては雨水の管渠を整備している。また、テレビカメラ調査の結果を基に延命化を図り、補修を行っている。

本橋委員 : テレビカメラ調査はもう全て終わっているのか。

事務局 : 本管は終わっている。今後考えていることは、陥没等の起きている箇所はほとんど取付管であることから、取付管の調査を行いたい。また、雨水についても調査を行っていきたい。財政的なものは、来年度さらに検討を進めていく予定である。

本橋委員 : 浸透ますの設置等、市民に協力を求めることも必要だ。単純に、悪い箇所を把握し、補修していくということを繰り返しているだけでは、財政的に持たないのではないか。

事務局 : まず、下水道総合計画で、市民に下水道事業はコストがかかるということを理解してもらいたいと考える。

本橋委員 : 下水道管渠の寿命が近づいていること、維持管理や改築更新にどのくらいのコストがかかるのかを市民に知ってもらうことは重要だ。併せて既存住宅等に雨水浸透ますの設置を求めるなどもしてほしい。

櫻井委員 : 下水道は市民にとって重要なインフラである。耐震化や浸水対策等も重要で、費用がかかることも仕方がないと思う。

狛江市内では住宅は増えているように思うが、人口は長期的に見ると減少化にあるのか。

事務局 : 「下水道総合計画」を策定するにあたり、「多摩川・荒川等流域別下水道総合計画」の中で予測している人口を使用している。また、市民の節水意識もあり、徴収できる下水道料金は減少してきている。

杉委員 : 経営の効率化という項目があるが、現在の収支バランス等が入っているとわかりやすい。

事務局 : 財政面は来年度検討を進めていくので、今後はなるべく数値的なものも載せていきたい。

#### ○浸水対策

杉委員 : P.12 で、浸水対策が挙げられているが、透水性舗装等も効果があると思う。透水性舗装等も浸水対策に含まれているのか。

事務局 : 市内においても透水性舗装は数カ所行っているが、基本的には道路担当の課で行っている。

田中会長 : 透水性舗装等は目詰まり等の問題もあるようだが、ヒートアイランド等にも良いと聞くので、検討してみしてほしい。

#### ○流域下水道

櫻井委員 : 狛江市は市全域が流域下水道ということだが、流域下水道が狛江市内を通る箇所を狛江市が管理しているということなのか。例えば、この管が途中から世田谷区に入ると、その部分から世田谷区が管理するということになるのか。

事務局 : 流域下水道は自治体でなく、東京都下水道局が管理している。枝線については自治体ごとに管理をしている。

#### ○情報公開

井上委員 : 大きな契約をする時は、莫大なお金がかかる。市民に理解してもらうことが重要で、どこまで情報公開するかは難しいと思うが、もっと積極的に情報公開すべき。

事務局 : 広報、情報の充実は必要だと思う。改善したい。

#### ○資料について

田中会長 : 1つ目に、資料に図表番号を付けてほしい。2つ目にP. 6の基本理念について、もう少し狛江市の地域特性に合わせたものにしたらどうか。また、狛江市下水道総合計画の基本理念図の文字はより見やすいよう、色を変えた方がよい。3つ目に、経営の効率化と財政の健全化については、メリハリをつけて表現した方がよい。また、ここではできるだけ具体的な数値を入れていくと良いと思う。4つ目に、下水道サービスの向上についてだが、(1)市民への情報公開と(2)ソフト対策は内容が似ている。下水道のサービスとは、下水道の持つ機能を適切に市民に提供するという事のように思うので、項目を検討してみてもどうか。

事務局 : 検討したいと思う。

#### ○耐震化

杉委員 : 下水管渠の耐震基準等は国としてあるのか。

事務局 : 地震の際、マンホールが浮上しないようにする設計等、ある程度工法は開発されている。狛江市では今年度、緊急地震対策を行っており、大きな地震が起きた場合、

どのような地域でどのくらいの被害が出るのかということ調べている。今後は財政計画等と併せ、耐震化を行う時期等を決めていく予定である。

以上